

LGBTQ+/SOGIE 施策の取組状況について

1 取組の経緯

- 2020 (R2) 年 4月 政策局SDGs推進室内にLGBTQ+/SOGIE施策担当ラインを新設
 7月 専門相談窓口「明石にじいろ相談」開設
 10月 研修・出前講座の開始
- 2021 (R3) 年 1月 パートナーシップ・ファミリーシップ制度施行
 LGBTQ+フレンドリープロジェクトを始動
 啓発のための「にじいろキャンペーン(第1弾)」を実施(2月まで)
 4月 明石市医師会とLGBTQ+/SOGIEに関する連携協定を締結

2 取組の基本方針

- (1) 「少数者への支援」ではなく誰もが「自分事」として関わるテーマ
 本市が進める「すべての人に“やさしい”まちづくり」の一環として、悩みや苦しみを抱えるLGBTQ+当事者の方に寄り添った支援を行うことはもとより、市民・事業者・地域団体等、まちづくりに関わる一人ひとりが「自分事」として関わりを持ち、みんなで取組を進める。
- (2) ^{ソジエ}SOGIEの理解を広め『ありのままがあたりまえ』のまちへ
 SOGIE(性的指向、性自認、性表現の頭文字を並べた総称)は、誰もが持つ性のあり方をあらわす要素であり、SOGIEに関するテーマについては、すべての人が当事者となります。
 一人ひとりがSOGIEについて考え、その組み合わせの多様性の中で数が少ない人であるLGBTQ+も尊重され、差別されることもない「ありのままがあたりまえ」のまちを目指す取組を進める。

3 明石市パートナーシップ・ファミリーシップ制度

互いを人生のパートナー、家族、大切な人として尊重し、継続的に協力し合う関係にあることの届出があったことを証明する「パートナーシップ・ファミリーシップ制度」を令和3年1月に施行しました。

(1) 対象者の要件

以下の要件を満たしていれば、届出者の戸籍の性別やSOGIEは問わない。

- ① 成人である
- ② いずれかが市内在住(又は転入予定)
- ③ 配偶者、届出する相手以外のパートナーがいない
- ④ 双方が近親者でない



(2) 届出様式の選択制

届出様式については、効力は同じであるものの名称は異なる6種類の様式から選択可能

- ※様式の名称 ① パートナーシップ届 / ② ファミリーシップ届 / ③ 結婚届 /
 ④ 家族届 / ⑤ 事実婚届 / ⑥ ○○届(自由記載)

(3) 届出の状況

11月末時点で18件の届出を受理し、届出受理証明書を交付

(4) 届出者の声

届出の手続の際に、話を伺った主な内容は以下のとおりです。

- ・医療機関で家族として対応してもらえるか不安があり、利用することにした。
- ・婚姻すると姓が変わるため、制度を利用することにした。
- ・LGBTQ+/SOGIE施策に取り組む明石市に住みたいと思い、他市から転入してきた。

4 明石にじいろ相談（専門相談窓口）

(1) 相談体制

市の職員が対応し、相談内容に応じた支援や情報提供等を関係機関と連携して行っています。

- ① 電話相談 : 毎週木曜日 12時30分～16時30分（1回30分程度）
- ② メール相談 : 随時受付
- ③ 来所相談 : 毎月第1・3水曜日 13時00分～15時50分（1回50分）
- ④ こども相談 : 平日 9時00分～17時00分（18歳までの子を対象）

(2) 開設からの相談実績

期間	電話	面接	メール	計
2020年7月～ 2021年11月	159	25	26	210

相談者：本人 135件 相談内容：性別違和・治療について 109件
本人以外 75件 性的指向に関すること 43件
孤独感・話し相手 38件 など

5 学校と連携した取組

子ども達が、自分自身や友達など、一人ひとりのSOGIEを「大切な個性」として尊重し合い、一日の大半を過ごす学校生活が安心して送れるよう、学校と連携した取組を進めています。

(1) 関連図書の配付（小・中・特別支援学校、明石商業高校）

教職員に向けて、LGBTQ+当事者の子ども達の悩みの声を知り、大人や先生が「できること」を考えることができる図書を配付しました。また、性のあり方に悩む子には自分らしく生きること、周りの子達には「ありのままを受け入れること」のヒントとなる図書を保健室等に配付しました。

(2) こども向けホームページの作成、案内カードの配付（小・中・特別支援学校）

人知れずに一人で悩む児童生徒が正しい情報にアクセスできるよう、こども向けホームページを作成し、QRコードでリンク付けした相談カードを市立の全小・中学生に配付しました。



（案内カード）

(3) 教職員研修

専門職員が、学校単位での教職員研修や、教職員が出席する研修会で講義等を実施しています。

【今年度の実施状況（予定を含む）】

- ① 小学校1校、中学校2校で教職員向け研修を実施
- ② 年次研修（新任教職員研修、3年次研修、教職員次世代リーダー研修等）
- ③ 中学校生徒指導担当者会、不登校対策研修会

(4) 児童・生徒向け出前講座

外部講師を派遣し、SOGIEを理解することや尊重し合うことのきっかけとなるよう、出前講座を実施しています。

【令和3年度】 小学校 4校、中学校 5校、高校 1校（予定を含む）

6 研修・出前講座

(1) 研修内容

SOGIEをすべての人に関わる自分事と考え、LGBTQ+も尊重されるまちの実現に向けた実践行動につながるよう、専門職員が講師として、受講者のニーズに応じた内容で実施しています。

(2) 実施状況（学校関係を含む）

【令和3年度 計49回（予定含む）】

- ① 市職員、市施設スタッフ向け研修
- ② 学校関係（教職員研修、児童生徒向け講座）
- ③ 地域関係（自治会、こども会等、人権教育推進員、民生児童委員等）
- ④ 市民・子ども向け講座 など



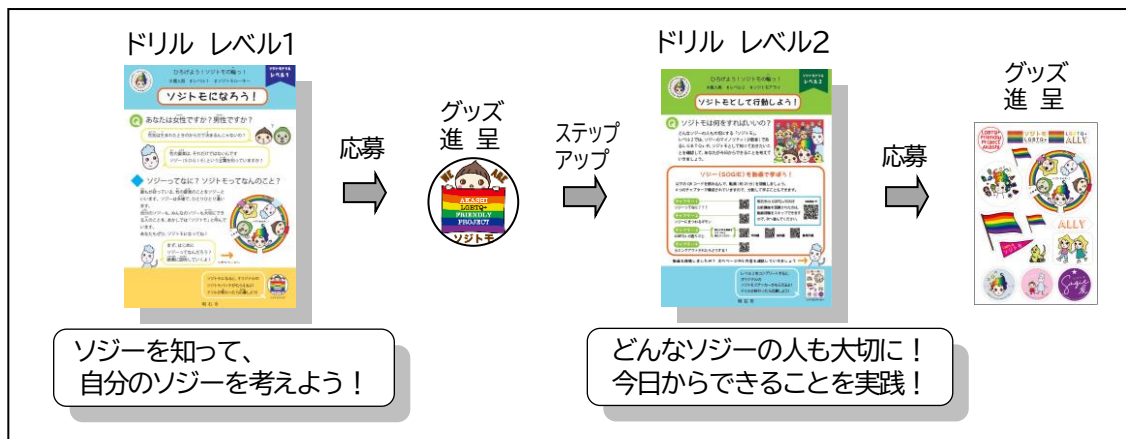
7 啓発の取組

昨年度、市と市民・事業者らが共に取組の機運を高める「LGBTQ+フレンドリープロジェクト」を始動しました。また、性の多様性のシンボルである6色のレインボーを公共施設や店舗等に掲げるなど、啓発キャンペーンを官民連携により実施しました。

今年度は、さらに多くの市民に SOGIE について理解を広め、主体的に関わっていただくための啓発キャンペーン第2弾を11月20日から開始しています（12月27日まで）。

(1) ソジトモの輪

市民が取り掛かりやすく、SOGIE について考えてもらえるよう「ソジトモ（SOGIE 友）」を新たなキーワードに掲げ、「SOGIE について知り、自分の SOGIE を考え、どんな SOGIE の人も大切にできる人」＝「ソジトモ」の輪を広げることがキャンペーン第2弾の柱として展開します。



広報紙（12月1日号）に特集記事を掲載するほか、キャンペーン期間中、JR明石駅コンコース内の「明石ボン太」にたすきを掛け、「ソジトモ」の浸透に向けた周知を図っています。

また、市民図書館、西部図書館、イオン明石において「出張ソジトモ講座」等を実施しました。



(ボン太除幕式)

(2) 市民向けフォーラム

12月2日に「SOGIE から考える性の多様性」をテーマとする「あかしヒューマンフェスタ」を開催しました。民生児童委員、人権教育推進委員、人権啓発員をはじめ地域に理解や取組を進める上でキーパーソンとなる方々に参加いただき、教育関係者には動画を配信しました。

12月18日には、人気 YouTuber を講師に招いたセミナーを開催します。

(3) まちなかレインボー

「ありのままがあたりまえのまちづくり」のシンボルとして、明石駅前広場に面するパピオスあかしの階段を6色のレインボーで装飾しました。



(にじいろ階段)